クローバーだより

２０２１年2月８日
名古屋柳城短期大学附属
三好丘聖マーガレット幼稚園
加藤　千夏

節分が過ぎ、立春を迎えました。とても暖かく、春が近づいてきたかと思いきや、まだまだ零度を下回る日があり、寒さに震える日もあります。

ぽかぽかと暖かい日には、お水を混ぜた泥んこを使って『ピカピカ泥団子』作りが流行ります。日向ぼっこをしながらお団子をピカピカに磨き上げていきます。寒い日には、園庭の真ん中を使って鬼ごっこが流行ります。子ども達はこの季節の移り変りを全身で感じ取りながら、何気なく遊びを選んでいるのですね。

周囲からのさまざまな刺激を受けて育っていく 0～2 歳児。今回は『感性』を考えてみましょう。

0～2 歳は感性の土台をつくる時期

感性とは、外からの刺激を感じる力のことをいいます。人の気持ちを思いやったり、美しいものを美しいと感じたりする気持ち、いろいろな物事を深く感じる心です。

快い体験で感じる心を育みましょう

0～2 歳は自分が感じたことを言葉で表現するのが難しい年齢ですが、この時期に五感を使って取得した様々な感覚は３歳以降に豊かな表現として花開きます。感性を磨くというと、美しい音楽を聞かせたり、英語に触れさせたりといった特別な刺激を与えなければいけないと思うのは間違いです。乳幼児にとっては毎日の生活そのものが感性を育てる素晴らしい刺激となるのです。

例えば、そばにいる人の優しい声、抱っこをしてもらった時のぬくもりなど、心に快い刺激を与えます。また、友だちとの触れ合いから、表情やしぐさで人の感情を感じ取る場面も出てくるでしょう。この様に乳幼児期には、普段の生活の中で子ども自身が気持ちがよいと思うことや、楽しいと思う経験をたくさんしていく事が大事なのです。

本物に触れよう

そして「本物に触れる」体験が本当の感性を育てることに繋がります。絵本で見た動物を実際に見てみると、動物の特有な匂いを知り、鳴き声を聞くことでその違いを知ったり、触ってみる事でふわふわ、ごわごわ等の感触が得られます。「本物に触れる」体験は、単なる知識だけでなく、本当の感性を育てることに繋がります。ぜひ、工夫しながら、子どもの生活体験を増やしていって下さい。

かかわりのヒント

全身で音楽を楽しもう！

激しい音楽よりも、ゆったりとしたリズムや、柔らかな音色がおすすめ。子どもは全身で音楽を楽しんでいるので、音楽を聴く時間を作ってもいいですね。

ごっこ遊びで想像力を育もう！

なにかをなにかに見立てて遊ぶ「ごっこ遊び」が大好きになる時期。子どもが自分の心の中に浮かんだイメージでなにかに没頭することは、感性を育てるうえでも大切です。遊びの相手になりながら、子どもの想像力が発展するように手助けしましょう。

感性は育てなおせる！遅れを見つけたら戻って体験を

生活体験が少なかったり、年齢に応じた適切な刺激を受けずに育ったりした子の中には、汚れるのを極端に嫌がって泥んこ遊びができない、体を動かして遊ぶのが苦手という子がいます。そんな時は無理をしないで少しずついろいろな刺激を与えるようにしましょう。感覚、感性は戻れば獲得ことができます。

自由な感情表現も大切！あまり枠にはめ込まずに

悲しい時にはワーッと大声で泣き、嬉しい時には全身で喜びを表現します。このように自分の感情を素直に表現できるのは感性豊かな証拠であり、乳幼児期の特権でもあります。おおらかに見守っていきましょう。

今月のとっておき絵本

《子育て相談》

自分の子育てにこれでいいのかな？と不安に思われた時、
こんな時どうしたらいいのと思われた時にお話にいらっしゃいませんか？
保育経験者がお話しさせていただきます。お電話で予約していただき、
ご都合の良い日を決めさせていただきます。

TEL　０５６１－３６－８３７３　　お電話お待ちしています